

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 4 月 5 日 (2007.4.5)

【公開番号】特開 2001-237789 (P2001-237789A)

【公開日】平成 13 年 8 月 31 日 (2001.8.31)

【出願番号】特願 2000-47114 (P2000-47114)

【国際特許分類】

H 0 4 H 9/00 (2006.01)

H 0 4 B 1/16 (2006.01)

H 0 4 N 5/44 (2006.01)

H 0 4 N 5/445 (2006.01)

H 0 4 N 17/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 H 9/00

H 0 4 B 1/16 C

H 0 4 N 5/44 A

H 0 4 N 5/445 Z

H 0 4 N 17/00 M

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 19 日 (2007.2.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】番組視聴履歴取得装置及び番組視聴履歴取得方法

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 放送番組に対する視聴者の視聴履歴を取得する番組視聴履歴取得装置において、

ザッピングを行っているかどうかを監視するザッピング監視手段と、

前記ザッピング監視手段によりザッピングしていると判断されたザッピング時に、チャンネルを選局したかどうかを判断するチャンネル決定判断手段と、

前記チャンネル決定判断手段により、選局したと判断されたチャンネルを視聴履歴として取得する番組視聴履歴取得装置。

【請求項 2】 ザッピング開始命令を与えるザッピング指示手段をさらに備え、

前記ザッピング監視手段は、前記ザッピング開始命令によりザッピングを行っているかどうかを監視することを特徴とする請求項 1 に記載の番組視聴履歴取得装置。

【請求項 3】 前記ザッピング開始命令により受信チャンネルをザッピングするザッピング制御手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の番組視聴履歴取得装置。

【請求項 4】 前記チャンネル決定判断手段によりザッピング時にチャンネルを選択されたと判断されたチャンネルに対し、選択された回数をチャンネル毎に記憶する選局回数記憶手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の番組

視聴履歴取得装置。

【請求項 5】 前記ザッピング制御手段が受信チャンネルを順次走査する時間間隔を設定するザッピング時間設定手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の番組視聴履歴取得装置。

【請求項 6】 チャンネルの放送周波数情報が記憶されたチャンネルメモリと、ザッピングするチャンネルを前記チャンネルメモリに登録するザッピングチャンネル登録手段とを備えたことを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の番組視聴履歴取得装置。

【請求項 7】 前記選局回数記憶手段に記憶されている選択回数が多いチャンネル順に、チャンネルを表示させる番組表表示手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の番組視聴履歴取得装置。

【請求項 8】 ザッピングを行っているかどうかを監視するザッピング監視ステップと、

前記ザッピング監視ステップによりザッピングしていると判断されたザッピング時に、チャンネルを選局したかどうかを判断するチャンネル決定判断ステップと、

前記チャンネル決定判断ステップにより、選局したと判断されたチャンネルを視聴履歴とする番組視聴履歴取得方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、放送番組に対する視聴者の視聴履歴を取得する番組視聴履歴取得装置及び方法に関し、さらに詳しくは、多チャンネル化が進んでいるテレビやラジオ等の放送系において、視聴者の番組視聴履歴を効果的に取得し、取得した視聴履歴を基に、表示する番組表の並べ替えを行う番組視聴履歴取得装置及び番組視聴履歴取得方法に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記目的を達成するためになされたものであって、そのための、
第 1 の技術手段は、放送番組に対する視聴者の視聴履歴を取得する番組視聴履歴取得装置において、ザッピングを行っているかどうかを監視するザッピング監視手段と、前記ザッピング監視手段によりザッピングしていると判断されたザッピング時に、チャンネルを選局したかどうかを判断するチャンネル決定判断手段と、前記チャンネル決定判断手段により、選局したと判断されたチャンネルを視聴履歴として取得することを特徴とする。

第 2 の技術手段は、第 1 の技術手段において、ザッピング開始命令を与えるザッピング指示手段をさらに備え、前記ザッピング監視手段は、前記ザッピング開始命令によりザッピングを行っているかどうかを監視することを特徴とする。

第 3 の技術手段は、第 1 または第 2 の技術手段において、前記ザッピング開始命令により受信チャンネルをザッピングするザッピング制御手段をさらに備えたことを特徴とする。

第 4 の技術手段は、第 1 から第 3 のいずれか 1 の技術手段において、前記チャンネル決定判断手段によりザッピング時にチャンネルを選択されたと判断されたチャンネルに対し、選択された回数をチャンネル毎に記憶する選局回数記憶手段をさらに備えたことを特徴

とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

第5の技術手段は、第1から第4のいずれか1の技術手段において、前記ザッピング制御手段が受信チャンネルを順次走査する時間間隔を設定するザッピング時間設定手段をさらに備えたことを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

第6の技術手段は、第1から第5のいずれか1の技術手段において、チャンネルの放送周波数情報が記憶されたチャンネルメモリと、ザッピングするチャンネルを前記チャンネルメモリに登録するザッピングチャンネル登録手段とを備えたことを特徴とする。

第7の技術手段は、第1から第6のいずれか1の技術手段において、前記選局回数記憶手段に記憶されている選択回数が多いチャンネル順に、チャンネルを表示させる番組表表示手段をさらに備えたことを特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

第8の技術手段は、ザッピングを行っているかどうかを監視するザッピング監視ステップと、前記ザッピング監視ステップによりザッピングしていると判断されたザッピング時に、チャンネルを選局したかどうかを判断するチャンネル決定判断ステップと、前記チャンネル決定判断ステップにより、選局したと判断されたチャンネルを視聴履歴とする番組視聴履歴取得方法である。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明は次のような効果を奏する。

本発明によれば、ザッピング時のチャンネル切り替え（一定時間間隔でチャンネルが切り替わる処理）は、視聴者がチャンネル選択を行ったとして選局回数としてカウントせず、視聴者がザッピング時に番組決定手段を用いてザッピングを停止し、番組を選択した時のみ、視聴者がチャンネル選択を行ったとして視聴履歴を取得するため、視聴者によるザッピング操作が頻繁に行われても、その都度選局回数としてカウントされることがなく、視聴履歴を正確に取得し得る番組視聴履歴取得装置を提供することができる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

また、本発明によれば、ザッピング時にチャンネルが自動時に切り替わっていく一定時間間隔を視聴者が設定することができるため、視聴者の好みに合わせたスピードでチャンネルの切り替えを行うことができる。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

また、本発明によれば、ザッピング対象となるチャンネルは、チャンネルメモリに登録されているチャンネルすべてとするのではなく、視聴者が設定することができるため、視聴者が視聴したいと思うチャンネルのみをザッピング対象にすることができるので、短時間でザッピング処理を行うことができ、視聴したい番組を早期に検出することができる。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

また、本発明によれば、より正確に取得した視聴履歴をもとに、選局回数が多いチャンネル順に番組表を表示させているので、従来技術よりもより正確に視聴者の履歴を反映させた使い勝手の良い番組表を表示することができる。